Maurice Utrillo

パリの光と影

《モンマルトル》1938-40 年　西山美術館蔵

没後60年 ユトリロ展

2015 6.6 sat – 7.4 sat 桐蔭学園アカデミウム ソフォスホール

開館時間＝10:30-17:30（最終入館 17:00）／日曜休館／入場無料
主催＝学校法人桐蔭学園　協力＝西山美術館

お問い合わせ先＝桐蔭学園アカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614　TEL.045-975-2100　http://toin.ac.jp/ma/

バスでのご来場をお願い申し上げます。東急田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約 15 分

Maurice Utrillo

「ブゾンのガブリエル・デストレの家」1917-18 年　西山美術館蔵

没後60年

ユトリロ展

パリの光と影

＜各駅からのバスのご案内＞
●東急田園都市線 青葉台駅よりバス
「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
●東急田園都市線 市が尾駅よりバス
「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。
または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
●小田急線 柿生駅よりバス
「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車

＜タクシーご利用の場合＞
東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅からが便利です。
行き先は「桐蔭学園鉄（くろがね）神社前」とお伝えください。
※駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。

「没後60年 ユトリロ展　パリの光と影」開催にあたって

学校法人桐蔭学園理事長　平岩 敬一

モーリス・ユトリロ（Maurice Utrillo）――　図工や美術の教科書に掲載されたり、たびたび展覧会が催されたりするなど、日本でもなじみがあり人気の高い画家のひとりです。自身が慣れ親しんだパリの街並み、なかでも出生地であるモンマルトルの風景画を多く残しています。

ユトリロの人生は決して順風満帆なものではありませんでした。1883年、ユトリロは、父親を知らずに生まれました。のちに女流画家として注目を浴びる母親（シュザンヌ・ヴァラドン）は、息子と過ごすよりも、仕事や恋愛、絵を描くことに時間を費やしました。祖母に育てられたユトリロは、そばに母親がいないさびしさを紛らわすためにお酒を飲み、やがてはアルコール依存症となり、何度も入退院を繰り返していました。

ある時、医師から治療の一環として絵を描くことを勧められ、このことがきっかけで画家モーリス・ユトリロが誕生しました。それまで絵筆を持ったこともなかった彼の運命が、大きく動いたできごとでした。

ユトリロは遠近法を取り入れ、パリの風景を詩情豊かに描きました。教会などの建物や町の通りを題材にした作品は静けさがあり、そして叙情的ですらあります。絵肌の質感を表現するために、深く塗り重ねられ、時には漆喰や卵の殻などを絵の具に混ぜて描いた作品は、独特の空気感を漂わせています。

「没後60年 ユトリロ展　パリの光と影」は、東京都町田市の西山美術館のコレクションから構成いたしました。ユトリロの作品は、時代によって技法や色彩に変化が見られます。特に評価、人気ともに高い「白の時代」の作品を中心に、29点の油絵と世界でも非常に珍しい壺絵1点を展示いたします。

開催にあたり、西山美術館館長の西山由之氏をはじめ、ご指導ご協力賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。